

7 月、8 月には、SSH プロジェクトが実施されました。複数回にわたって紹介いたします。

「地域の海洋環境保全プロジェクト」

中学 1 年生は、7 月 24 日(金)、海の環境保全に関する理解を深め、科学的探究心の育成を図ることを目的として、山陰海岸ユネスコ世界ジオパークの浦富海岸、城原海岸にて、SSH 研修プログラムを実施しました。

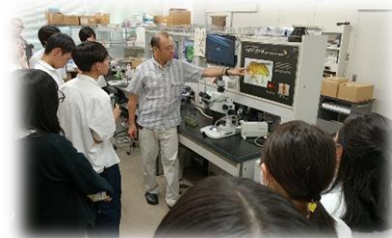
カヤックを使用し、海側から日本海の荒波や風雪による浸食によって形成されたリアス式海岸の岩脈や浸食窪を観察するほかシュノーケリングにより、水生生物調査を行いました。鳥取県の沿岸におけるムラサキウニの食害による藻場の減少や磯焼けの状況など、地球温暖化が海洋生物にも影響を及ぼしていることを学びました。



「研究所訪問プロジェクト」

中学 3 年生は、7 月 29 日、30 日の 2 日間の日程で、兵庫県内にある理化学研究所の 3 施設を訪問し、放射光や技術革新、生命機能について理解を深めました。放射光科学センターでは、放射光を発生させる施設「SPring-8」を見学し、電子から放射光を発生させる仕組みと過程を学びました。続いて訪問した計算科学研究センターでは、スーパーコンピュータ「富岳」を活用した高精度な解析・シミュレーションによる新薬開発や防災対策など、未来を切り拓く最先端科学技術の現場を体感しました。科学が社会課題の解決に果たす役割の大きさを実感できたようです。

また、生命機能科学研究センターでは、研究者からセンチュウやショウジョウバエの遺伝子解析から見てきた発生メカニズムや寿命、iPS 細胞を活用した新薬などの説明を受け、真剣に聞き入っていました。参加した生徒からは「世界に誇る日本の科学技術力や産業競争力の高さ、そして科学技術が日々の安全にも直結していることを肌で感じた。私たちはもっと科学技術について学ぶ必要がある」との感想があり、確かな手ごたえを得る研修となりました。



左写真：周長 1,436m の蓄積リングを持つ、世界最高クラスの放射光施設「SPring-8」。実際にその巨大さを歩いて体感しました。

中央写真：1 秒間に 44 京回を超える圧倒的計算能力を持つスーパーコンピュータ「富岳」。目の前に現れた瞬間、全員から歓声が上がりました。

右写真：「生命とは何か」という究極の謎に挑む「BDR」。ヒトと AI の両輪で進む最先端研究の今に、深い衝撃を受けました。